

# 小中一貫教育だより

NO.1

諏訪市立四賀小学校

R7.7.24

小中一貫教育学校は、小学校と中学校で共有する「9年間の一貫した教育目標」を決め、学習や交流等「9年間の学び方の連続性や教育内容の系統性・体系性に配慮した指導の工夫」をして、いわゆる「中一ギャップ(小中の段差)」の緩和をしながら、児童生徒の成長を支える教育です。諏訪市南部地区では、教育目標を『自分と友だちを大切にし、夢におかっあゆむ』とし、一貫教育実現に向け、大きく一歩を歩み始めています。ここでは、その取り組みの様子を紹介していきます。

## 「交流ができてとても嬉しいです」～子ども同士の交流より～

### 【ものづくり交流 6年】

6月10日に、諏訪南中学校の3年生の1クラスが本校を訪れ、6年生ともものづくり交流を行いました。諏訪南中学校では、例年「ものづくり学習」で中洲小と本校の6年生に木で作ったジエンガや立体パズルを製作し、プレゼントしてくれています。10日は、中学生が6年生の要望を聞こうと来校しました。最初はお互いに緊張している様子もありましたが、6年生は試作品で遊びながら「こんなのができるなんてすごい。」「立体パズルを素早く組み立てられた。」と遊びに興じ、中学生も一緒に遊んだり、その様子を嬉しそうに見ていたりする姿がありました。6年生にとっては中学生を身近に感じ、中学校での学習の一端を知る機会となりました。



### 【かいらんの木 譲渡会】



中洲小学校、諏訪南中学校には、校内に「諏訪市の木」でもあるかいらんの木が多くあり、かいらんの木の手入れや、実ったかいらんを使った活動など、様々な活動が行われています。今回、中洲小学校で新たにかいらんの木を植樹するにあたり「四賀小学校でも一緒にかいらんの木を育ててみませんか。」と中洲小学校の6年生より呼びかけがありました。両校の

児童会役員同士でオンラインを使って、譲渡にあたっての中洲小学校の子どもたちの思いや、かいらんの木の手入れの仕方などを交流しました。7月17日には、本校の中庭に中洲小学校からいただいた2本のかいらんの木を植樹し、その様子をお昼の放送で



流し、全校の子どもたちに紹介しました。子ども達からは、「責任をもって、立派な木に育てたい。」  
「交流ができて良かった。」といった声が聞かれました。南部地区の学校の共通のシンボルとして、かりんの木を大切に育てていきたいと思えます。

## 【あいさつ運動・クラブ活動 交流会】



7月10日に、諏訪南中学校の有志の生徒たちが本校を訪れ、当番活動を行っている児童と一緒に、「あいさつ運動」をしたり、陸上クラブの練習を指導のお手伝いをしたりと交流を行いました。

あいさつ運動では、大きなお姉さんたちの姿に、恥ずかしがっている様子もありましたが、ハイタッチを

してもらい喜ぶ姿もありました。陸上クラブでは、最後に鬼ごっこを行い、大きなお兄さんお姉さんたちの足の速さとダイナミックな走りに、憧れをもった児童もいたようです。諏訪南中学校は、本校と遠い位置にあるため、交流の機会も設けにくいのですが、本校の卒業生を中心に朝の時間に四賀小に立ち寄ってくれたことで、交流を実現することができました。中学生の存在が身近になる貴重な機会となりました。

## 「子どもの笑顔が広がるような小中一貫教育を」 ～合同教職員研修・合同CS・合同PTAの取り組みより～

5月2日には、諏訪南中学校において南部地区の教職員が集まり、中学校の授業の様子を参観して意見交流を行ったり、麻布教育ラボ所長の村瀬公胤先生による講演を聞き、南部地区の探究テーマである「学び合い」について考え合ったりしました。また、その時々にTeamsも利用しながら、連携・接続・交流のあり方の意見交換をしています。今後も、9月には本校を、12月には中洲小学校を会場として、授業研究を中心とした南部研修会が予定されています。

また、7月8日には中洲小学校を会場として、小中合同学校保健委員会が開かれ、薬剤師による「おくすり教室」の講演会も行われました。

また、先日は四賀小、中洲小、諏訪南中の三校のコミュニティースクール・コーディネーターの皆様による合同の「コミュニティースクールだより」も発行（保護者の皆様にはリーバー、地域の皆様には回覧）されました。

今現在は、施設分離型で難しい部分もありますが、こういった機会を積み重ねることにより、子どもたちが主体的に取り組む姿に繋がったり、様々な場面で感じるであろう小中のギャップの段差が少なくなったりしていくのだと感じています。また、子どもをとりまく職員や保護者の皆様、地域の皆様など大人同士の交流も、小中一貫教育の可能性を強く後押しするものと感じています。

